

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 15

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進					作成日	R2.6.25
						担当課名	社会教育課
						担当者名	野村 優
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定		建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成		基本政策	3	子どもを生き育てやすいまち	
個別施策	②	②子どもたちの居場所づくり事業の実施		基本施策	3	子育て支援の充実	
根拠法令等	鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱, 鹿嶋市放課後児童クラブ設置条例						

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	<p>文部科学省及び厚生労働省による連携のもと、平成19年度から総合的な放課後対策として「放課後子どもプラン事業」が開始した。平成26年度には「放課後子ども総合プラン」に改められ、両事業を一体的に又は連携して実施することを目標に計画的な整備を進めてきた。</p> <p>しかし、近年の女性就業率の上昇等により、更なる共働き家庭等の児童数増加が見込まれており、「待機児童」を解消し、「小1の壁」を打破するためには、放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携を前提とした追加整備が不可欠となることから、平成30年度に「新・放課後子ども総合プラン」が策定された。</p>
目的（事業の目指すところ）	<p>共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める。</p>
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 『鹿嶋市放課後子どもプラン運営委員会』の開催 放課後児童クラブ事業における安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。 放課後子ども教室事業における安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p><国の動向> 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進める。</p> <p><県の動向> 地域の実情に応じた研修計画の策定、教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策、当別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策。</p>

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	H31 (R1) 年度 (実績)	R2年度 (予定・見込)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)
		放課後児童クラブ利用者数	人	992	1,105	1,171	1,186
	放課後子ども教室（平日）利用者数	人	295	295	300	300	300

投入コスト	全体計画		H31 (R1) 年度 (決算額：千円)	R2年度 (予算額：千円)	R3年度 (計画額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)
	事業経費	放課後児童クラブ（運営委託料）		181,603	180,980	187,939	187,939
（消防・警備・清掃委託）			1,189	1,129	1,129	1,129	1,129
（修繕、工事費）			13,828	3,251	3,251	3,251	3,251
（賃貸料・備品・消耗品・償還金ほか）			11,924	3,939	3,939	3,939	3,939
放課後子ども教室・平日（運営委託料）			12,197	12,618	12,618	12,618	12,618
（携帯電話料）			336	360	360	360	360
放課後子ども教室・休日（運営委託料）			1,503	1,784	1,784	1,784	1,784
放課後子ども総合プラン運営委員会経費			95	167	167	167	167
合計			222,675	204,228	211,187	211,187	211,187
財源内訳		国県支出金		103,288	86,644	84,340	83,815
	地方債						
	その他（参加者負担金）		50,545	52,062	61,429	62,216	63,003
	一般財源		68,842	65,522	65,418	65,156	64,894
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		2	2	2	2	2
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		2	2	2	2	2

4 具体的施策評価 (Check) **主要事業名: 放課後子ども総合プランの推進**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①放課後児童クラブ事業 【比率: 60%】	放課後や長期休業中に、保護者が子どもを安心して預けられる適切な居場所づくりを確保するための環境整備をおこなう。また、利用者増加のため、募集をおこなう。 ・児童クラブの環境整備 ・ニーズに応じたクラブの増設 ・募集に関する周知 広報かしま、鹿嶋市HP及びかしま子育てねっと	児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、保護者が仕事などで風間家庭にいない小学生児童の適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社 (指導員 102人)	・児童クラブを4クラブ増設することにより、待機児童の解消につながり、保護者が安心して子どもを預けられる環境整備ができた。 平成30年度 29クラブ ⇒平成31年度 33クラブ ・広報かしま、鹿嶋市HP及びかしま子育てねっとにおいて、通年及び夏休み利用の募集告知を実施した。	児童クラブ入会希望者すべての受入をおこない、児童の適切な遊びや生活の場を提供することで、児童の健全育成を図ることができた。 ・定員: 1,304人 (前年度: 1,211人) (前年度比: 107.6%) ・利用者数: 992人 (前年度: 911人) (前年度比: 108.8%)	(評価をふまえた改善点) 委託先への聞き取りにより、令和2年度のニーズを把握し、学校施設の使用計画や活用状況等についての協議などをおこない、適切な体制づくりに努めた。	個別事業実績評価点: 54 [課題] 年々高まるニーズに対応するための、受入場所の確保が課題となっている。
②放課後子ども教室事業・平日 【比率: 20%】	放課後に学習や創作活動、地域の人たちとの交流など、さまざまな体験活動をおして、社会性、知力の向上などを図ること、また、下校時の安全を確保するため、小学校1~3年生を対象に放課後子ども教室を開催する。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校)	対象児童を高学年が下校する時刻まで、または保護者迎えまで預かることで、児童の安全・安心な活動拠点を確保する。 ・入会希望者すべての受入 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社	放課後子ども教室を委託事業として5団体と契約し、事業を実施した。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室(10小学校)	放課後子ども教室(平日)の利用によって、低学年のみの下校児童を減少させることができた。 ・利用者数: 295人 (前年度: 314人) (前年度比: 93.9%)	(評価をふまえた改善点) 放課後子ども教室(平日)の運営を円滑にするため、委託先及び学校との連携に努めた。	個別事業実績評価点: 16 [課題] 放課後児童クラブとの一体的な運営が求められているが、実施場所が異なり連携が難しい。また、未実施である2校の開設が課題となる。
③休日子ども教室 【比率: 20%】	小学校1~6年生を対象に地域の方の参画を得て交流活動等の機会を提供することで、地域の人との関わりの中から社会性を得ること、また、地域全体で子どもを育てていくことを目的に、休日子ども教室を実施する。 ・休日子ども教室(10箇所)	休日の様々な体験活動や地域住民との交流活動により、児童の社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性を育成する。 ・運営委託契約 まちづくり委員会 10地区 NPO法人 1社	放課後子ども教室の休日版を委託事業として10団体と契約し、事業を実施した。 ・休日子ども教室(11箇所) 開催回数 71回 ※各地区まちづくりセンター(10箇所)及び子ども大学で実施した。	休日子ども教室では、地域の歴史を学んだり、お祭りに参加するなど、地域の特色に合わせた活動に児童が参加し、豊かな人間性を育むことができた。 ・利用者数: 2,347人 (前年度: 5,876人) (前年度比: 39.9%) ・開催回数: 71回 (前年度138回) (前年度比51.4%)	(評価をふまえた改善点) 休日子ども教室の運営を円滑にするため、委託先との連携に努めた。また、次年度に向けた取り組みについても関係機関と協議をした。	個別事業実績評価点: 16 [課題] 放課後児童クラブとの一体的な運営を図るための仕組みづくりが課題となる。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計点数	85.3	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、保護者ニーズに対応し、4クラブ増設しての実施となった。児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	保護者のニーズに応じた、放課後等に安心して子どもを預けられる環境づくりが求められている。また、年々増加する利用希望者に対応するためにも、受入体制の充実を図る必要がある。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している教室も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。また、放課後児童クラブの基準(面積等)も令和2年4月1日から厳格運用となっているため、それに向けた対応も引き続き必要となっている。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 放課後子ども教室及び放課後児童クラブの教室確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。						

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 16

主要事業名	各公民館まちづくり事業の充実					作成日	R2.6.25	
						担当課名	中央公民館	
						担当者名	松島 良治	
事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	自治事務（任意）	○	市民サービス	管理経費	建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	年度から	年度まで		

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	4	市民と共に創るまちづくり	
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成		基本政策	9	地域が結び、笑顔あふれるまち	
個別施策	①	まちづくり委員会活動の支援		基本施策	2	コミュニティ活動の活性化	

根拠法令等	
-------	--

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	地域における公民館事業（まちづくり事業）を、各地区まちづくり委員会に委託することで、地域住民が求める地域活動を、自ら企画・運営する主体的な活動が実践されています。また、各地区まちづくり委員会委員と公民館職員で組織する「まちづくり連絡協議会」において、地区まちづくり委員同士での情報交換や各種研修会の実施など、共創のまちづくりの推進に向けた取り組みを実践しています。
------------	--

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成されます。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や地域資源を活用した学習機会の提供及び地域住民の学習拠点としての公民館活動 ・各種事業（イベント等）を活用した地域の連帯感を育む機会の提供 ・自治会や子ども会、シニアクラブなどの地縁団体や様々な市民活動団体に対する支援・連携事業
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審）</p> <p><地域における社会教育の目指すもの></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～ 2 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～ <p><「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学びへの参加のきっかけづくりの推進 2 多様な主体との連携・協働の推進 3 多様な人材の幅広い活躍の促進 4 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等
--------------------------	--

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	H31（R1）年度 （実績）	R2年度 （予定・見込）	R3年度 （予定・見込）	R4年度 （予定・見込）	R5年度 （予定・見込）
		地区公民館利用者数	人	235,991	249,000	250,000	251,000
	研修会等の機会	回	42	42	42	42	42

投入コスト	全体計画		H31（R1）年度 （決算額：千円）	R2年度 （予算額：千円）	R3年度 （計画額：千円）	R4年度 （計画額：千円）	R5年度 （計画額：千円）
	事業経費	地区まちづくり事業委託		10,900	10,400	10,400	10,900
まちづくり支援事業委託			2,080	2,980	2,980	1,080	1,080
・まちづくり研修会等事業			(480)	(480)	(480)	(480)	(480)
・特色ある地域づくり事業			(400)	(600)	(600)	(600)	(600)
・地域活動学習会（コミュニティ）作成事業				(700)	(700)	(0)	(0)
・利他のおもてなし事業			(1,200)	(1,200)	(1,200)	(0)	(0)
まちづくり市民大会事業委託			450	450	450	500	500
	合計		12,980	13,380	13,380	11,980	11,980
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他（参加者負担金）						
	一般財源		12,980	13,380	13,380	11,980	11,980
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		5	5	6	8	10
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		5	5	5	5	4

3 具体的施策評価 (Check 主要事業名:各公民館まちづくり事業の充実

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①まちづくり支援事業 (研修会、講座、市民大会) 【比率: 60%】	<ul style="list-style-type: none"> 情報等を共有し、地域課題に対し、研究調査等を推進する組織を設置する。 まちづくり活動関係者及び公民館職員の研修会の開催。 新たな地域づくり事業の構築と推進に寄与する地域リーダー研修会の開催。 研修会、講座等での学びの成果を発表及び今後の市民活動の方向性を示すための大会の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置 まちづくり研修会の開催 地域の現状や課題を取り上げ、解決を図るための研究(学習)機会の提供(まちづくり講座の開催) まちづくり市民大会実行委員会の設置 まちづくり市民大会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 5月17日第1回役員会を経て、まちづくり連絡協議会設置 ※構成委員:各地区まちづくり委員会委員(10地区)、公民館職員(11館) まちづくり研修会1回 まちづくり講座3回 まちづくり市民大会実行委員会3回 鹿嶋市まちづくり市民大会1回 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり連絡協議会の設置により、共通の地域課題に対して、各地区が課題解決に向けた取組みを推進することができた。 まちづくり研修会 120人 まちづくり講座 242人 まちづくり市民大会の開催では、研修会及び講座での学びの成果を発表し、コミュニティ活動の重要性について共有できた。参加者:380人 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>公民館は市民活動の拠点として、地域の情報を常に収集し、地域の現状を把握するとともに、様々な分野の市民活動や市民団体が連携・運動できるための活動とネットワークのあり方について、地域の皆様と情報を共有し、地域の将来像について協議・検討していくことができた。</p>	個別事業実績評価点: 45 【課題】 地域の現状を見る化した地域カルテを作成し、各地区において地域コミュニティラボイベントを結成し、地域の課題を解決していくための具体的な方法について取組んでいく必要がある。
②公民館事業 (まつり、体育祭等) 【比率: 10%】	<p>地域の実情を反映した地域の課題解決に向けた取組を地区まちづくり委員会(地域住民)が主体となり、企画・運営し、各種事業をとおして住民の絆づくりのための事業や公益的なまちづくり事業を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民が主体的に取り組むまちづくり事業の企画・運営に必要な会議、研修会の開催。 地域の課題解決に向けた取組み、地域の絆づくり事業、公益的なまちづくり事業の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区まちづくり委員会と委託契約を締結。 役員会、専門部会議を毎月開催 住民体育祭、公民館まつり実行委員会開催 敬老会実行委員会への参加 まちづくりだより発行年4回 夏まつり、住民体育祭など、公益的なまちづくり事業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情、特色を生かした顔の見える関係づくり、地域づくり事業が行われた。 地域住民の日頃の活動(学習)成果を生かすための場の提供を行うことができた。 公民館利用者/地区人口 235,991人/67,627人 (3.5回) ※全国2回弱 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>様々な地域住民が参加できる催しを開催し、住民の地域への興味や関心を高めることについて、一定の効果を得ることはできている。活動で培った学びの成果を地域の課題解決にどのように反映させるか、住民にとって住みやすい魅力あるまちを創っていくために、公民館の機能を生かした取組みを検討していくことができた。</p>	個別事業実績評価点: 7.6 【課題】 コミュニティ意識の希薄化、地域役員等の担い手不足など、公民館は常に地域活動の担い手づくりをしていく必要がある。多様化した地域の課題やニーズに対応した事業を各種団体と連携して取組んでいく必要がある。絆を生かした地域づくり活動が求められている。
③特色ある地域づくり事業 (モデル事業) 【比率: 10%】	<p>まちづくり研修会やまちづくり講座、まちづくり市民大会において学習した成果を地域に還元するための取組をモデル事業として3年間支援する。</p>	<p>学習(学び)の成果を地域に還元している事業(活動)をとおして、地域課題解決に向けた地域の特色を生かした取組みの実施。</p>	<p>H30年度～子どもの居場所づくり事業(平井地区・三笠地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> モザイクアートの開催 長期休業中の学習支援 子ども食堂支援 <p>R元年度～オリ・パラレガシー事業(豊津地区・全地区対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真展 ｽﾎｰﾂ&健康づくりネットワークの結成 	<p>子どもの居場所づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> モザイクアート150人 学習支援事業541人 子ども食堂(毎月実施110人) <p>オリ・パラレガシー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種団体と連携し、健康寿命一番のまち鹿嶋づくり事業を推進する組織とプログラム開発の仕組みづくりを展開する。 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>人と人との絆、支え合う力、他人を思いやる心などが失われつつある中で、これからの公民館は、今まで以上に学校、家庭、地域との連帯感を深め、地域住民との協働による地域活動の活性化に取組んでいく必要がある。行い事業に取組むことで、様々な市民活動団体と連携した地域課題解決に向けた活動の実践が行われた。</p>	個別事業実績評価点: 7.6 【課題】 H30年度から、前年度のまちづくり研修会、まちづくり講座、まちづくり市民大会において学習してきた学びの成果を生かした実践的な取組みが行われており、平井地区、三笠地区においては、R2年度をもって3年間の行い事業としての支援が終了する。事業の成果を地区まちづくり委員会において評価し、今後の取組みについて検討していく必要がある。
④職員の階層別研修・情報交換会の実施 【比率: 20%】	<p>まちづくり活動や地域づくり活動、公民館の運営情報等を共有し、課題に対し研究調査等を推進する組織を設置する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> センター長(公民館長)会議 地域活動支援員会議の開催 公民館主事研修会の開催 公民館主事研修会運営委員会の開催 茨城県主催研修会への参加 全国公民館研究会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> センター長会議9回 地域活動支援員会議11回 公民館主事研修会5回 公民館主事研修会運営会議6回 職員等研修会1回※基調講演 全国公民館研究会1回 ※永年勤続職員表彰受賞者3名、優良公民館職員表彰受賞者1名 全国優良公民館表彰 豊郷公民館受賞 	<ul style="list-style-type: none"> 各会議の開催により、各地区で開催される事業、地域活動についての情報交換を図ることができた。 公民館主事研修会をとおして、参加者相互の親睦を図るとともに、公民館主事としての総合力を高める機会となった。 	<p>(評価をふまえた改善点)</p> <p>公民館長相互の情報共有は、地域の課題を把握し共有していくためには大変有意義な場である。公民館主事研修会においては、公民館主事のスキル向上のための重要な機会であり、研修の成果として、各種全国表彰の受賞に繋がっている。</p>	個別事業実績評価点: 15 【課題】 令和2年度から公民館長及び公民館主事の職が非常勤特別職から会計年度任用職員に変更となることから、地域から求められる公民館職員として期待に応えられるようさらなるスキルの向上が必要である。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	75.5	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	<p>社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な暮らしと住みよい地域づくりを推進していくためのコミュニティ活動の重要性を再確認し、活動全体の見える化とネットワーク型コミュニティの必要性について、多くの皆様と共有するための取組みが行われた。 各地区まちづくり委員会においては、地域住民が主体的に地域づくり事業やまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取組が行われた。 各種研修会、講座等を開催することで、地域課題や解決に向けた取組み等についての情報を共有することができた。また、学習活動の成果を生かした実践活動の支援を展開していくことで、地域住民に対し地域への興味、関心を高め、地域参画が進むように促すためのきっかけづくりとして期待できる取組みである。(新たな地域の担い手づくり) 					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	<p>研修会や講座、市民大会において学習した成果を地域に還元するための事業展開や共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動の充実を図るための継続した支援が必要である。住みよい地域づくりを推進していくために、各地区の魅力や課題を点検し解決するための手法を整理していくことで、持続可能な地域づくりを進めていくことが必要と考える。</p>			
課題	<p>継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。</p> <p>現在各地区で行われている様々な市民活動が見える化し、ネットワーク型コミュニティの形成に向けて、各地区のリーダーの皆様と連携・協力し、地域コミュニティラボイベントを結成し、地域の課題を解決していくための具体的な方法(事業)について、令和2年度以降取組んでいく必要がある。様々な地域づくりの資源と市民活動の実態を振り返りながら、計画的・効果的なまちづくり活動と、その活動を担っていく持続可能な市民(地域)組織のあり方についてより具体的なビジョンを示していくため、引き続きコミュニティラボの策定について取組んでいく必要がある。</p>					
改善策	<p>課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。</p> <p>コミュニティラボ策定に向けて、より具体的なビジョンを示し、地域住民が主体的に取組むための手法(事業)を検討していく必要がある。令和2年度においては、地域の基礎情報を収集した地域カルテの作成や地域コミュニティに関するアンケートを実施し、地域の独自性や課題を把握し、課題解決のための取組みや事業内容の検討し様々な手立てや方法を地域の皆様とともに考え、より具体的な目標を掲げることや目標を数値化することで、わかりやすい地域コミュニティラボの作成に取組む。</p>					

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17①

主要事業名	文化芸術の振興						作成日	R2.6.19
							担当課名	社会教育課
							担当者名	水野 喜行
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
							年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(3)	生きがいづくりにつながる文化的活動の促進		基本政策	5	学び・楽しみ、地域がつながるまち	
個別施策	①	芸術祭・市美術展等の発表の場の拡充		基本施策	3	芸術活動の活性化	
根拠法令等	鹿嶋市社会教育推進計画						

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文化芸術は、人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもので、何物にも代え難い心のよりどころです。市民の文化芸術活動をさらに活性化するためには、市民一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え、継続的に支援していくことが求められている。
目的（事業の目指すところ）	市民が文化芸術に触れる機会や自ら参加する機会を提供することにより文化芸術の振興を図る。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）での文化芸術行事の実施 文化芸術を振興する団体、組織（文化協会、文化スポーツ振興事業団など）の支援、育成 文化芸術を通じた交流の場となる市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）の機能の充実や開放を行う
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	東京オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典であると同時に文化の祭典であり、我が国の文化芸術の価値を世界へ発信する大きな機会であるとともに、文化芸術による新たな価値の創出を広く示していく好機である。（平成30年 文化芸術推進基本計画第1期答申：文化審議会）

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	H31 (R1) 年度 (実績)	R2年度 (予定・見込)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)
		文化芸術事業数	事業	52	60	60	65
	社会教育施設利用者数 (勤文、公民館)	人	371,324	370,000	375,000	380,000	385,000

投入コスト	全体計画		H31 (R1) 年度 (決算額：千円)	R2年度 (予算額：千円)	R3年度 (計画額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)
	事業経費	文化振興事業補助金（文化協会）		400	400	400	400
文スポーツ事業団運営補助金			23,393	23,393	23,000	23,000	23,000
文スポーツ事業団文化事業補助金			4,000	1,500	1,500	1,500	1,500
文化芸術普及活動への謝礼			100	100	100	100	100
オリパラ文化プログラム			1,675	400	400	0	0
合計			29,568	25,793	25,400	25,000	25,000
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		29,568	25,793	25,400	25,000	25,000
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		0	0	0	0	0

4 具体的施策評価 (Check) **主要事業名:文化芸術の振興**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化芸術振興団体の支援、育成 【比率： 30%】	・鹿嶋市文化協会、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団に補助金を交付するとともに、適宜連絡を取り合い支援、育成を図る。	・鹿嶋市文化協会の会員数、実施事業数 ・鹿嶋文化スポーツ振興事業団の実施事業数	各団体へ補助金の交付 / 適宜各団体との連絡調整、各種会議への出席	文化協会会員数877名(前年比59名減) / 文化協会事業数1事業 / 文スポ事業団事業数10事業	(評価をふまえた改善点) 実施予定事業の台風や新型コロナウイルス感染症の影響について、適宜協議した。	個別事業実績評価点： 20 [課題] 高齢化など様々な要因によって、文化協会の会員数が例年減少傾向にある。新たな人材の発掘、育成などが課題にある。
②オリパラ文化プログラムの実施 【比率： 30%】	鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を創出し、その良さや豊かさに気づき、生まれ育った郷土に誇りと愛着を持ち、鹿嶋市民としてのアイデンティティを確立する。	・文化プログラム実施数	鹿嶋まつりにおいて祭頭囃、木滝あんばい囃子の披露 / 鹿嶋市郷土かるたの作成 / 公開番組収録の実施	文化プログラム実施数： 4	(評価をふまえた改善点) 特別な文化プログラムとするため、全て新規事業とした。	個別事業実績評価点： 23 [課題] オリンピックが延期となり、1年後を見据えて文化プログラムを計画的に行う必要がある。
③文化芸術の普及活動 【比率： 20%】	昔から伝わる民話や偉人、方言の普及活動などをとおして郷土教育の推進を図る。また市民音頭の普及も図る。	・鹿嶋の民話普及活動数 ・市民音頭普及活動数	鹿嶋語り部の会による民話普及活動 / 各種イベントにおける市民音頭の普及活動	民話の普及活動4回実施、2,449人参加 / 市民音頭普及活動2回実施(さくら祭り、鹿嶋まつり)	(評価をふまえた改善点) 次の担い手を育成するための「語り部養成講座」は、参加者がおらず開催することができていない。	個別事業実績評価点： 12 [課題] 語り部養成講座などで、担い手を発掘、育成することは難しく、今までと違った手法での内容の検討が必要である。
④社会教育施設の状況調査 【比率： 20%】	生涯学習推進体制等整備状況調査を行い、社会教育施設の現状を把握し、より良い機能の充実などの検討を図る。	・社会教育施設の利用者数	生涯学習推進体制等整備状況調査の実施 / 調査結果に基づいた他市町村の比較検討	社会教育施設(勤文、公民館)の年間利用者数371,324人	(評価をふまえた改善点) 多くの施設に調査協力を依頼するため、回答しやすいように説明方法を工夫した。	個別事業実績評価点： 13 [課題] 調査項目の算定方法が施設によって解釈が異なっている場合があるので、適宜説明する必要がある。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	66.7	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 鹿嶋市は貴重な有形・無形の文化財を有しているとともに、地域に根付いた祭りや踊りに参加する伝統、衣食住の文化など暮らしの中に文化が根付いている伝統がある。また、日常においても、稽古事や趣味などを通して様々な文化芸術体験が行われている。こうした市の文化財や伝統等は、誇るべきものであり、市民がその価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させるため、市民と行政が連携をとり様々な展開している。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	市の文化財や伝統等は、誇るべきものであり、市民がその価値を十分に認識し、これを維持、継承、発展させるため、市民と行政が連携をとり様々な事業を展開していくため。					
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・高齢化など様々な要因によって、文化協会の会員数が例年減少傾向にある。新たな人材の発掘、育成などが課題にある。 ・オリンピックが延期となり、1年後を見据えて文化プログラムを計画的に行う必要がある。 ・語り部養成講座などで、担い手を発掘、育成することは難しく、今までと違った手法での内容の検討が必要である。 ・生涯学習推進体制等整備状況調査の項目の算定方法が施設によって解釈が異なっている場合があるので、適宜説明する必要がある。							
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・市内高校の文科系部活動(書道部、吹奏楽部など)やその卒業生などと協力した文化事業を展開し、文化協会の入会につなげていく。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、効果的な時期に、効果的な文化プログラムを行っていく。 ・語り部に興味を持つ人を見つけるため、様々な媒体での情報発信(HP,SNSなど)を検討していく。 ・調査の説明会や独自のマニュアルを作成するなどの対策をとり、統一した解釈での調査となるようにする。							

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17②

主要事業名	文化芸術の振興					作成日	R2.6.25		
						担当課名	中央公民館		
						担当者名	松島 良治		
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)		自治事務 (任意)	○	市民サービス		管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業		その他
							年度から		年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	2 未来を創るひとづくり・まちづくり
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	5 学び・楽しみ、地域がつながるまち
個別施策	① 芸術祭・市美術展等の発表の場の拡充	基本施策	3 芸術活動の活性化
根拠法令等			

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	市民の日頃の芸術・文化創作活動の成果を発表する機会を提供します。また今後の創作意欲の醸成を図るとともに芸術・文化を身近に親しむ機会とします。
目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育みます。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い、また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに、文化活動とおした市民間交流の場の提供に努めます。 芸術文化活動を活用した東京2020大会開催に向けた市民の機運の醸成を図ります。 芸術・文化団体間の連携を図り、団体活動の活性化を図れるよう支援します。
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	市民や関連団体と共創することで、さらなる芸術・文化活動の充実を図るとともに、幅広い分野の文化活動を行うことができる施設の充実などが求められています。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	H31 (R1) 年度 (実績)	R2年度 (予定・見込)	R3年度 (予定・見込)	R4年度 (予定・見込)	R5年度 (予定・見込)
		市美術展出品者数	人	205	80	200	202
	来館者数	人	1,200	1,080	1,100	1,120	1,140

投入コスト	全体計画		H31 (R1) 年度 (決算額：千円)	R2年度 (予算額：千円)	R3年度 (計画額：千円)	R4年度 (計画額：千円)	R5年度 (計画額：千円)
	事業経費	市美術展覧会		400	500	500	400
芸術祭			154	308	308	308	308
合計			554	808	808	708	708
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金) 一般財源		554	808	808	708	708
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		5	5	6	8	10
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		5	5	5	5	4

4 具体的施策評価 (Check) **主要事業名:文化芸術の振興**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化事業の開催 (市美術展覧会)	第23回鹿嶋市美術展覧会の開催 会期:7月28日(日)~31日(水) 会場:まちづくり市民センター 1階・2階フロア ・鹿嶋市文化協会に展覧会運営業務委託契約を締結する。 ・運営委員会、実行委員会の設置 ・絵画、書、写真、工芸の部門ごとに「最優秀賞」「優秀賞」「奨励賞」「会員賞」を表彰する。 ・申込受付を市内公民館で行い、申込者の利便性を図る。 ・広報(周知)については、新聞社等を活用し、周知を図る。	・出品点数目標値:196点 ・鑑賞者数:1,060人	・5月29日:第1回運営委員会 ・6月8日:第1回実行委員会 ・6月18日~30日:申込期間 ・7月2日:第2回運営委員会 ・7月27日:審査員会議 ・7月31日:授賞式 ・8月22日:第2回実行委員会 ・広報周知活動 広報かしま(6月15日号)/市民センター・FMかしま/広報紙(全戸配布)/FMかしま/かしま/茨城新聞掲載(7月30日) ・申込者へ展覧会周知用チラシ・ポスター配布 ・東京2020大会参画アワード申請	・出品点数:205点(192点) ・鑑賞者数:1,200人(1,038人) ・授賞者:39人 最優秀賞 4人 優秀賞 9人 奨励賞 22人 会員賞 4人 ・運営委員会委員8人、実行委員会委員53人の協力を得て計画どおり円滑に実施することができた。 ・東京2020大会参画プログラム事業(文化アワード)として承認される。	(評価をふまえた改善点) ・展覧会の運営に際し、芸術分野で活躍する文化協会会員による運営委員会、実行委員会を組織し、知識と経験を生かして作品の展示レイアウトや搬入・搬出に至るまで、出品者と協力して円滑に運営することができたことは、今後も継続すべき内容である。 ・東京2020オリンピック開催に向け、鹿嶋市の芸術文化を国内外に発信し、市内の芸術文化の活性化を図るため、市文化協会と、引き続き連携していく必要がある。	個別事業実績評価点: 26 [課題] 令和元年度は、リビウカ競技鹿嶋市開催を記念して、リビウカ開催1年前イベントとして、芸術祭に含まれる部門(芸芸・茶華道・自由創作など)の展示についても同時開催とした。生け花展示については、台風6号の影響で、屋外展示の準備ができない状況であったため敢無く中止となった。毎年課題となっている新しい作家の発掘・育成及び若い世代(高校生等)の作品については、今後も幅広く周知し、市内高等学校においては、引き続き学校を訪問し参加協力を呼び掛けていく。
【比率: 40%】			評価: B	評価: B	評価: B	
②文化事業の開催 (市美術展覧会入賞者展)	第23回鹿嶋市美術展覧会入賞者展の開催 会期:8月27日~9月1日 会場:まちづくり市民センター 市民ギャラリー ・第23回鹿嶋市美術展覧会に入賞された優れた作品を一堂に会した展覧会を開催する。 ・絵画、書、写真、工芸の部門ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、会員賞受賞作品を展示する。	・出品点数目標値:39点 ・鑑賞者数:300人	・8月14日:授賞者へ協力依頼 ・8月27日:市美術展運営委員会委員協力のもと、作品展示 ・9月1日:作品搬出 ・広報周知活動 市民センター・FMかしま	・出品点数:39点 授賞作品すべて展示 ・鑑賞者数:316人	(評価をふまえた改善点) ・平成27年度以降開催していなかった市美術展覧会入賞者展を市文化協会と協議し、再び開催することができたことは、また一つ市民が気軽に優れた芸術作品にふれる機会を提供することができた。	個別事業実績評価点: 15 [課題] 市美術展覧会の優れた作品を集めた入賞者展であり、幅広い世代の人たちが鑑賞してもらえるための周知活動をより一層注力していく必要がある。中学校や高等学校への周知を図っていく必要がある。
【比率: 20%】			評価: B	評価: B	評価: A	
③公民館・まちづくり市民センター事業への参画	2019KASHIMA文化交流フェスティバルの開催 期日:7月28日 会場:まちづくり市民センター ・リビウカ競技鹿嶋市開催を記念しての1年前イベントとして開催。公民館地区ごとに地域の活力・魅力を発信する活動を行う。	・2019KASHIMA文化交流フェスティバル実行委員会の設置 ・実行委員会の開催 実行委員には、関係団体、文化関係団体、生涯学習団体、地区まちづくり委員会をもって組織し、幅広い活動がリンクする取組みを行う。 ・公民館地区ごとに地域の活力、魅力を発信する取組みを行う	・6月6日:第1回実行委員会 ・6月27日:第2回実行委員会 ・7月26日:臨時実行委員会 ・7月28日:規模を大幅に縮小して開催 ・12月19日:第4回実行委員会 ・広報周知活動 広報かしま(7月1日号)/市民センター・FMかしま/イブニング区長回覧	・加賀野アワードロードショー(市議会-推進委員会連絡協議会)、アワード発表(市議会-披露や木津あはれ囃子、東京五輪音頭など)、塩づくり体験事業、生け花屋外展示(茶華道連盟)、などは、台風6号の影響のため中止。規模を縮小して開催する。 ・ポッチャ体験やゆかた着付け体験、リビウカおもてなしおひつくり、祭頭祭衣装着付け体験など、屋外イベントを中心に開催。来場者1,200人	(評価をふまえた改善点) リビウカ競技鹿嶋市開催を記念しての1年前イベントとして、鹿嶋市の魅力をあらためて確認し、本市を訪れる来訪者などに幅広く発信してための取組みとして、アワード活動や芸術・伝統文化活動、地域の特性を生かした様々な活動が、多くの市民活動団体と連携して実施する機会をつくることができた。	個別事業実績評価点: 30 [課題] 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リビウカ開催が1年延期となり、令和2年度に計画していた事業についても見直しが必要である。リビウカ開催の可否決定を受けて、本来計画していた事業のあり方についても新しい生活様式に基づいた企画に変更をしていく必要がある。
【比率: 40%】			評価: B	評価: B	評価: A	

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	71.3	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 市美術展覧会や各種芸術文化事業を開催することで、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また、気軽に芸術文化に親しむ機会を創出することができている。継続的な課題(芸術文化活動を行う新たな人材)については、市内高等学校を訪問し現状を把握(美術部等の文化部の部員の激減)したところではあるが、引き続き市文化事業に関する情報提供(周知・広報活動)を行い、新たな人材の発掘につながる取組みを継続していく必要がある。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	市内で最大規模の市美術展覧会(審査を伴う展覧会)は、市民が気軽に多様な芸術・文化にふれる大切な場となっていること、そして市内の芸術家の創作活動(意欲)を高める機会となっており、ゆとりと潤いを実感できる心豊かな市民生活を実現するとともに、活力ある社会を構築していくために必要な事業である。			
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 継続的な課題ではあるが、文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取組みを市文化協会と芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携して新たな取組みを進めていく必要がある。					
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。また、大会開催に向けた機運醸成を図っていくうえで、市の芸術文化活動をどのように生かす国内外に発信しアピールしていくのか。東京2020大会を活用した市芸術文化活動の活性化策を文化協会と連携して、引き続き取り組んでいく必要がある。令和元年度、市内高等学校を訪問し、美術部など文化部の部員が激減しているという現状を把握することができた。その現状を踏まえつつも、若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取組を文化協会と検討していく必要がある。芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携し、新たな芸術活動の担い手の育成に向けた取組を進めていきたい。また、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、新しい生活様式に基づきながら、再度オリンピック開催1年前イベントとして、まちづくり市民センターを会場に郷土の歴史や伝統文化について改めて確認し、地域の魅力を見直すための取組みを実施していく予定である。					

平成31年（令和元年）度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 18

主要事業名	青少年の体験・健全育成活動の推進					作成日	R2.6.19
						担当課名	社会教育課
						担当者名	水野 喜行
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	○	建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	2	未来を創るひとづくり・まちづくり	
体系項目	(4)	市民ぐるみで行う青少年健全育成の推進		基本政策	4	豊かな人を育むまち	
個別施策	①	子どもの学びを地域で支える仕組みづくり		基本施策	3	青少年の健全育成	
根拠法令等	鹿嶋市青少年センター設置条例（昭和43年6月11日）						

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	青少年の心と体への健全な発展を促し、自主性・社会性や正義感・倫理観を持った豊かな人間性を育むため、青少年の体験活動や青少年を取り巻く有害環境対策等を推進することにより、青少年の健全育成を図る。
目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成や非行防止などを行う。 ・自然の中での体験活動を通して、豊かな心を育み、たくましい子どもを育成する。 ・青少年がインターネットを適切に活用できるように、家庭、地域学校などにおける情報モラル教育の推進をする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年センター事業…青少年相談員を各地区に配置し、巡回活動や相談などを実施する。 ・フロンティア・アドベンチャー…小学5、6年生を対象に、自然の中での長期宿泊体験活動を実施する。 ・各種講演会の実施…適切なインターネット利用や心の発達に関する講演会を実施する。
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	体験活動は人づくりの“原点”であるとの認識の下、未来の社会を担う全ての青少年に、人間的な成長に不可欠な体験を経験させるためには、教育活動の一環として、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められている。（平成25年中央教育審議会）

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	H31（R1）年度 （実績）	R2年度 （予定・見込）	R3年度 （予定・見込）	R4年度 （予定・見込）	R5年度 （予定・見込）
		青少年健全育成事業数	事業	11	11	13	13
	メディア教育活動	回	5	10	10	17	17

投入コスト	全体計画		H31（R1）年度 （決算額：千円）	R2年度 （予算額：千円）	R3年度 （計画額：千円）	R4年度 （計画額：千円）	R5年度 （計画額：千円）
		青少年センター活動費		1,220	1,110	1,110	1,110
	フロンティア・アドベンチャー		4,700	0	0	3,000	3,000
	メディア教育講演会		57	65	65	65	65
	心とからだの講演会		50	50	50	50	50
	合計		6,027	1,225	1,225	4,225	4,225
財源内訳	国県支出金		43	43	43	43	43
	地方債		0	0	0	0	0
	その他（参加者負担金）		2,200	0	0	1,500	1,500
	一般財源		3,784	1,182	1,182	2,682	2,682
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		0	1	1	1	1

4 具体的施策評価 (Check) **主要事業名: 青少年の体験・健全育成活動の推進**

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけ成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①青少年センター事業 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> 青少年相談員による巡視活動を実施し、青少年に対する声かけや相談を通して青少年の健全育成を図る。 青少年相談員の資質の向上を図るとともに活動の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年相談員による巡視活動、店舗訪問活動人数 青少年相談員の研修参加人数 	青少年センター運営協議会の開催 / 青少年相談員による巡視活動や店舗訪問等の実施 / 有害図書回収活動 / 青少年相談員研修会の実施	青少年相談員による巡視活動、店舗訪問活動人員: 年間77人 / 青少年相談員各種研修参加人員: 年間34人	(評価をふまえた改善点) 今年度から青少年が多く集まる行事での活動に切り替えた。より効果的に行えるよう、活動時間帯や内容なども協議した。	個別事業実績評価点: 13 [課題] 青少年のインターネットなどに関するトラブルが増加傾向にある。そのようなトラブルにも相談できるよう相談員の知識向上を図る必要がある。
②フロンティア・アドベンチャー 【比率: 60%】	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で、1泊11日の長期集団宿泊体験の機会を提供し、豊かな心を育み、たくましい子どもの育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校5~6年生を対象に、1泊11日の長期集団宿泊体験を実施する。 実施後に保護者アンケートを実施し、事業全体の満足度9割以上を目指す。 	7月23日~8月2日(1泊11日間)実施 応募者: 110名 参加者: 70名 指導者: 83名	保護者対象に事後アンケートを実施し、42人から回答 / 約7割の参加者に変化があった / 事業全体の満足度は約9割	(評価をふまえた改善点) 指導者の入れ替わりが多く、スムーズな引き継ぎ、参加者の安全確保などができるよう、運営体制を見直した。	個別事業実績評価点: 47 [課題] 令和2年度は事業を実施しないため、これまでの実施方法を検証し、継続可能な運営体制を構築する必要がある。
③メディア教育講演会 【比率: 10%】	青少年が安心してインターネットを利用できる環境やインターネットを適切に活用する能力を習得することができるよう、情報モラル教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> メディア教育講演会を実施し、参加者理解度8割以上を目指す。 中学生を対象にフィルタリングサービスの状況調査を行い、フィルタリング実施率7割以上を目指す。 	市内公立5中学校においてメディア教育講演会を実施し、参加者アンケートをとる / 中学生を対象にフィルタリングサービスの状況調査を実施する	講演会参加者アンケートの結果、参考になった回答した人は9割以上 / 中学生のフィルタリング実施状況は7割(実施不明回答者は除く)	(評価をふまえた改善点) 実例を用いて説明することで、身近な問題だと感じてもらうように内容を工夫した。	個別事業実績評価点: 7.9 [課題] 中学校入学説明会などの時間を活用して講演を行っているため短時間での講演となっている。
④心とからだの講演会 【比率: 10%】	中学生に性や心の教育をすることにより、性についての正しい理解や知識を育て、青少年の健全育成を図る。	「心とからだの講演会」を実施し、参加者理解度7割以上を目指す。	市内公立5中学校において心とからだの講演会を実施し、参加者アンケートをとる	講演会参加者アンケートの結果、参考になった回答した人は9割以上	(評価をふまえた改善点) 第三者が講演することで、性に関する内容を素直に聞くことができる。	個別事業実績評価点: 7.9 [課題] アンケート内容を工夫し、どのような悩みを抱えているのか、調査できるように改善する必要がある。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	76.2	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	B	
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 ・国の調査では「体験活動が多い子は、自己肯定感が高い」という調査結果出ているが、青少年の体験は減少傾向にある。フロンティアでの体験を通して豊かな心を育み、たくましい子どもの育成することは、自己肯定感の向上に有効である。 ・インターネット利用は低年齢化しており、青少年に対して有害な情報も安易に手に入る現状となっている。メディア教育や性に関する教育を充実することで、健全な青少年の育成を促進することができる。								
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	見直し	理由	・令和2年度はフロンティア・アドベンチャーを実施しないため、これまでの実施方法を検証し、継続可能な運営体制の構築を検討するため。						
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・青少年のインターネットなどに関するトラブルが増加傾向にある。そのようなトラブルにも相談できるよう相談員の知識向上を図る必要がある。 ・令和2年度はフロンティア・アドベンチャーを実施しないため、これまでの実施方法を検証し、継続可能な運営体制を構築する必要がある。 ・中学校入学説明会などの時間を活用してメディア講演を行っているため短時間での講演となっている。もう少し時間を確保する必要がある。 ・心とからだの講演会参加者アンケート内容を工夫し、どのような悩みを抱えているのか、調査できるように改善する必要がある。								
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・市独自で行っている青少年相談員の研修内容を「青少年のインターネットの利用」に関する内容にしていく。 ・フロンティア・アドベンチャーの過去の参加者へのアンケートや新たな候補地の視察などを実施し、過去の検証、今後の検討を行っていく。 ・メディア教育と同時に進めている子育て講演会の実施時間などを調整し、時間の確保を行っていく。 ・心とからだの講演会参加者アンケート内容を改善していく。								